

JARL

香川クラブ報

No. 377 平成23年6月15日



J A 5 Y D E

フィールドミーティングのご案内

今年はもう梅雨入りで、昨年より早く入りました。被害は少なかったようですが台風2号の早い時期の四国接近と重なり異常天候です。

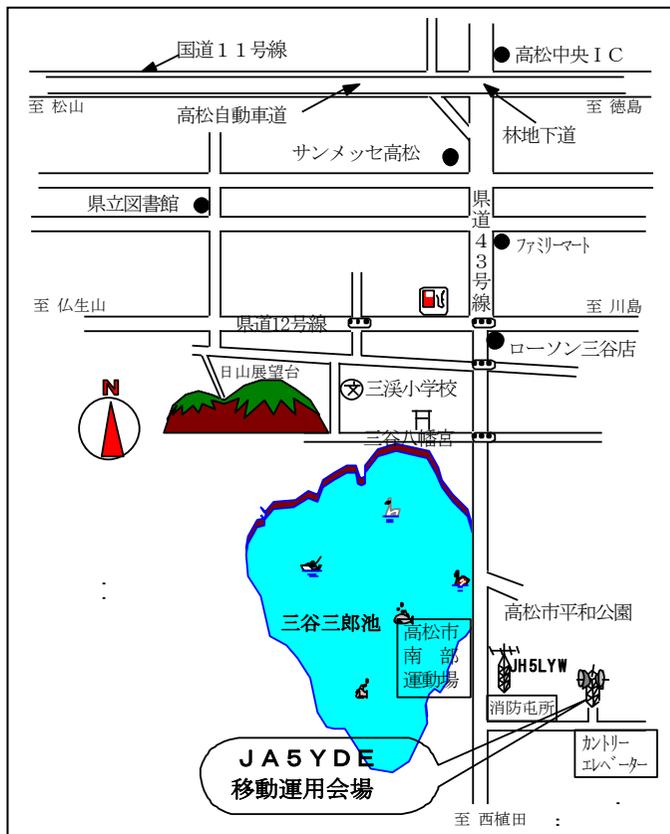
先日5月17日喫茶不二の屋にて定例ミーティングが行われました。フィールドミーティングも色々検討致しましたが今回も三好会長に甘えて会場をお願い致しました。

お忙しいとは思いますが楽しい一夜となりますように多数のご参加、また元気なお顔を拝見するのを楽しみにしております。

時間の取れる方は17時より用意等がありますので宜しくお願い申し上げます。

記

- 日時： 7月23日(土)(雨天決行)
焼き肉ミーティング 19時より
- 場所： 三谷町 JH5LYW三好会長邸別宅
- 参加費： クラブ会員(男性) 1,000円
(女性) 500円
- 会員以外 上記プラス500円
- 参加申込み： 7月20日(水)〆切
- 連絡先 JH5EZB
JH5PMZ



クラブミーティングの報告

未曾有の大震災から早2ヶ月が過ぎましたが、いまだ終息にはほど遠い状況が続いています。政治家は党派を超えて一致団結して復興に望まなければならないのに、自身と党利のためにワイワイと批判合戦をしているように思えます。それにひきかえ身を粉にし、手弁当で活動をしているボランティア方々には感謝の意を表します。

また、東北大震災から東日本大震災と命名をしたようですが、東日本と言えば東京から東が大震災に見舞われているかのようで、観光立国の日本には被害の無い所にも海外からの観光客が来なくなり、収入が途絶え生活に喘いでいる人々が沢山いるようで政府自身が全世界に向け風評被害を風潮しているように思えます。

心温まる記事も目にしました。子供がお菓子を持ってレジに並んでいたけれど、順番が近くになり、レジを見て考え込み、レジ横にあった募金箱にお金を入れて、お菓子を棚に戻して出て行きました。店員さんがその子供の背中に向けてかけた「ありがとうございます」という声が震えていました。政治家の皆さん、利権を考えず今が立ち上がる時です。

2011年5月17日(火)にクラブミーティングを開催し下記の議案を検討しました。

* オールJA5コンテストの参加について

期間は7月16日21:00から17日20:59迄。
前は三好会長が運用してくれました。今回も運用希望者がいなければ三好会長に一任することとなりました。

* フィールドミーティングについて

移動運用を兼ねての活動を考えて意見交換中、話がタイムスリップし、昔はどこそでテントを張って運用をした。その時はセカンドたちも参加をしていた。時には民宿を借り、羽目を外した等々、話が尽きる頃には県内の東から西の果てまで移動していました。日程等はフィールドミーティングのご案内をご覧ください。



* 全日本ARDF競技香川大会について

- JARL春号に競技大会の開催案内を掲載しています。夏号では最終の開催案内を掲載し、参加者を募集します。
- 準備会も3回開催し組織図案も出来上がっています。6月26日に第4回の準備会を開催し、正式な実行委員会を発足する運びになるでしょう。実行委員会で役割分担が決定した折りには快くお引き受けしてください。
- 競技会場となる市や会場施設、宿泊所との交渉はすべてクリア出来ました。後は地元自治会に周知をしてご協力を仰ぐだけとなっています。
- 最難関がエリアの地図作りです。OCAD(オリエンテーリング地図作成ソフト)で三好会長はじめ有志がエリアをくまなく歩き、小道や植生を観察してパソコンで地図を作図しています。進捗度は60%くらいです。
- 記念局8J5ARDFについて
9月1日～10月30日までの期間で運用をします。運用管理は京極クラブが担当しますが、香川クラブとしても何日かは協力をする予定です。運用日時が決定すればご協力をお願いします。

出席者： JA5AHM/JA51JL/JA5TFJ/JH5EZB/JH5LYW/JH5PMZ/JE5PBO/JI5XTP

ARDF大会に参加してきました

<四国地方ARDF競技大会>

平成 23 年 5 月 22 日

徳島県板野郡上坂町「技の館」周辺

四国ではじめて開催されたARDF競技大会が徳島県池田町。その後、徳島でのARDFは長きにわたりQRT状態でした。前々年、香川のARDFerが練習会の参加を呼びかけました。呼びかけに賛同した有志が多数参加をされ、競技について色々と学びました。参加者も研究熱心で2年足らずで今大会を開催する運びとなりました。今大会の参加者も56名を数えFBな大会になりました。JARL徳島支部からのスタッフも50名以上で支部がARDFに対する取り組みに相当力を入れているように感じました。

クラス	順位	コールサイン	所要時間	探索個数	備考
W35	1位	JF5ICB	1時間 28分 49秒	3個	スタッフが慣れない運営で不手際があったことを詫言しておりましたが、競技に関してはアップダウンも無く、TXもあまり隠してはならず、年配者に優しいFBな大会でした。
M21	1位	JH5LYW	1時間 29分 15秒	5個	
	3位	JF5ICA	1時間 43分 11秒	4個	
M50	7位	JG5OBX	1時間 49分 42秒	3個	
	3位	JG5WTP	1時間 48分 50秒	4個	
M60	2位	JA5UVT	1時間 15分 43秒	3個	
	3位	J15XTP	1時間 23分 50秒	3個	

ALL JA5コンテストに参加をしよう

今年のコンテスト期間は**7月16日(土)21:00から7月17日(日)20:59:59**までです。

なお、参加の際にはサマリーシートに「登録クラブ対抗」という欄がありますのでそこに左記のように記入するようお願いいたします。登録クラブ対抗の欄に記入していただく事により参加した各局の得点数がクラブの獲得点数となる場合もあります。オールJA5コンテストだけでなく、JARL四大コンテスト

登録クラブ対抗

登録クラブ番号	36-1-1
登録クラブ名称	JARL香川クラブ

はもちろんだのようなコンテストにも記載するようにして下さい。(JA5YDEのPRのため)

今年度のJARL主催コンテスト

コンテスト名	期間	周波数
6m&Down	7/2~7/3	50MHz帯以上
Field Day	8/6~8/7	3.5MHz帯以上
全市全郡	10/8~10/9	3.5MHz帯以上
All Asian DX	電信	6/18~6/20
	電話	9/3~9/5
QSOパーティー 平成24年	1/2~1/3	全バンド

クラブ局を運用したい方は事務局にお問い合わせして下さい。
お問い合わせ先：(メールアドレス)

電波に魅せられて

J A 5 A A

私は大正14年(1925)6月、香川県の多度津町で生まれた。この年は、戦前のアマチュア無線家達が翌15年のJARL結成を目指して世界に羽ばたき始めたときであり、また、社団法人東京放送局(JOAK)が愛宕山から初のラジオ放送を始め、まさに電波時代の幕明けの年であった。こうした年に生まれ合わせたことが、その後の私の生きざまにどうも影響を与えたような思いがしてならない。

昭和3年1月、3才のとき、父母に連れられ、徳島県美馬郡口山村(現在の穴吹町口山)に新設された「旧四国電力(株)第一発電所」の社宅に入居した。JR穴吹駅から穴吹川を10キロほど溯ったところである。そこで約10年間、川沿いの谷間の社宅で、明けても暮れても川の流れと水車・発電機の回転音を聞きながら育った。穴吹川は、剣山を源として流域の渓谷の流れを集め吉野川に注ぐ支流で、とても透明度の良い清流だった。春、ようやく水がぬるむ頃ともなると、悪童どもが誰からともなく誘い合って川に浸り、秋涼しくなるまで遊びほうけた。真っ黒に日焼けしていたそうだ。

小学1年生の頃、日本放送協会・徳島放送局が開局して放送を開始するとかで、我が家でもラジオを買うことになった。深い谷間のこととてロケーションは最悪、加えて発電機の励磁機のノイズレベルが高く、S/Nを稼ぐため、発電所からかなり離れたところで川を横断する大きなアンテナを張った。ところが肝心の「JOXK徳島放送局」の電波は受かりにくく、もつぱら「JOBK大阪」を聴くような始末。それも夜になると何故かダメ、聞こえるのは主に「JOAK東京」放送局のみ。送信出力に強弱があるとか、フェーディングのことは父から教わりおぼろげながら分かった。とにかく夜になるとずいぶん遠いところが聞こえるというこの現象が私の好奇心をくすぐったようで、それからというもの夜毎ラジオの前に釘付け。ダイヤルをひねくり回すのが日課のようになり、よく父に叱られた。夜9時、満州の新京放送局や朝鮮の京城放送局の「・・・午後8時の時報をお知らせします。内地では午後9時であります・・・。」といったアナウンスを聴きながら1時間の時差の存在を確かめるべく、地図を拡げて、赤く彩られ日本帝国の版図の広さを知ることになった。ある晩バンドの高い方にメキシコや東南アジアの放送を嗅ぎつけたりして次第に視野がワールドワイドに広がったようで、もっと遠くの局を聞きたいものとますます好奇心は募るばかりだった。この体験が後々BCLやSWL、果てはハムの世界で憂き身をやつすきっかけになったのかもしれない。

中学進学のため徳島市の伯母の家に下宿した6年生の頃から、ラジオの自作を始めた。「初歩のラジオの作り方」だったと思うが、その本を手本に、お決まりの鉱石ラジオを組立、そのうち「無線と実験」の、BCLやSWLの記事に刺激され、短波受信機づくりに手を染めることになった。限られたお小遣いから捻出しては部品を買い集めた。硯箱の蓋をシャーシー代わりにソケットを並べ直熱管(UV-30)2本の0-V-1を作った。電源はすべて自転車の懐中電灯をばらして利用した。ヒーターは2V、B電源には22.5Vだった。レシーバーを被り多くの海外放送を聴いてそのアナウンスから周波数を確かめてリストアップし、同調コイルを巻いたりほぐしたりしてダイヤルを校正し、ようやく私設短波実験局(戦前のアマチュア局)のシグナルを見つけたときはまさに天にも昇る心地だった。これが「電波で遊ぶ」ことを生涯のホビーとする出発点になったようだ。いつか自分の作った装置で電波を出したいものと夢を膨らますことになった。

中学に進学後、同級生の中からどういうキッカケだったか忘れたが、同好の士と遭遇。

彼こそ後のDXサー故島田玄太郎君（EX JA5EN）。早速意気投合、いろいろと教わり、立派な受信機を見せて貰いいろいろと刺激を受けた。SWLに一層熱が入り、モース符号の習熟に熱を上げることとなった。

昭和16年12月、太平洋戦争が始まり世の中は軍事色一色となり、戦前の実験局を始め一般家庭でも短波の受信は一切禁止されてしまった。

翌年5年になると進学先を決めることになったが、電気通信科のある県外へは食糧事情などから諦め、地元の徳島高等工業（のち工専と改称）で学ぶべく、珍しく真面目に入試の勉強に取り組み、島田君と揃って入学できた。

昭和18年ともなると戦況は一転、わが軍は多くの犠牲者を出しながら敗退の一途を辿り始めた。ついに我々の学校にも学徒動員令が下り、神奈川県川崎にある通信機器関係の軍需工場で働くことになった。やがて工場にも昼も夜も執拗な空襲を受けながら働いた。昼間の空襲は主に艦載機によるもので、6階建てのビルの合間までグラマン戦闘機が舞い降り、4階の窓から恐る恐る覗くと若い乗員の顔も分かるほどであった。そして夜はB-29による焼夷弾攻撃で防空壕に逃げ込む時間が多く、仕事はなかなか捗らなかった。私が最後に担当したのは電波ならぬ超音波による探信儀の調整だった。潜水艦を見つける装置だった。

そうしたある日、かねて志望していた陸軍の依託学生に採用され立川の陸軍航空技術本部から召集され、4月から立川飛行場の一画の内務班で軍事訓練を受けた。そして6月には動員は解除され帰校した。7月2日久しぶりに登校。ところがその夜、B-29による空襲を受ける。徳島市の中心部は焼け野原となった。我が家も油脂焼夷弾の洗礼を浴びたが、孤軍奮闘延焼を免れた。しかし学校は1棟を残し壊滅状態になり、授業は焼け残った工業高校の1室を借り、被災した教授たちも着の身着のままの姿で、教壇に立ち記憶に頼りながらの授業となった。そして8月15日の終戦、わが国初めての異国による占領・支配を受けることとなった。まさに驚天動地、天地のひっくり返ったような有様、将来に対する不安も大きく茫然自失の毎日だった。9月にはとにかく形ばかりの卒業式。働く目途も無く茫然自失の生活が始まった。

昭和21年4月運良く電力会社に電気技手に採用され働くことになった。それからの6年間は占領軍の施政下で、世の中のすべての仕組みが民主化に向って急速に変革され、古い教育の下で育った私たちには息苦しさを感じる毎日だった。勤め先では、未だ経験したことのない過激な労働運動に翻弄され、職場の秩序も乱れ異様な雰囲気であった。社会全体がそうした風潮に流されていたと思う。

そうした世情からハムの開放など夢のまた夢と諦めながらも、毎日自作の受信機で海外のハムの様子を知りたく受信に熱中した。ところが26年には民主憲法のもと、電波法の発効など情勢は急速に進み、ハム再開の機運も高まってきた。そして従事者免許の取得・無線局の申請、念願の免許下付、そして開局、DX QSOへの挑戦。念願のDXCCの完遂、この間の経緯は、今年の県支部報に述べたのでお読み頂きたい。

昭和40年4月転勤で高松市今里町へ移住、香川クラブに入会。144メガFMでローカル各局と毎夜ラグチューに花が咲いたものである。やがて都市計画による立ち退きとなり、51年綾歌郡畑田へ移住した。その頃からは勤務先の仕事や、関連企業への出向などハムを楽しむ余裕は殆ど無い状態が続いた。

平成元年に老父母の看護のため止む無く仕事を離れ、徳島に帰った。ローカル局の誘いでバケツト通信を始めた。剣山の1.2Gレピーター経由でなかなかFBだった。また、パソコン利用にも熱を上げ、ソフト作りにも挑戦した。SSTVにも手を染めたが、あまり魅力を感じることなく中止。その頃、失効免許局の救済措置で多くの方々がカムバック、彼らのネットに参加した。

ここが終焉の地と老妻とともに思い定めて暮らすことほぼ14年経った頃、香川に住む子供たちの勧めで、平成15年春、再度綾歌郡に移住、畑田団地で長男一家と暮らすこととなり、再度香川の皆さん方にお付き合いを頂くことになった。

電波に魅せられ、電波を追っかけ、ハムライフにどっぷり浸かってもう59年、思えば長いようでまた短くも思える生涯だった。

平成14年年8月 JA3AA島OMのお世話で開局50周年のミーティングが池田市で行われ、当時健在だった5名のAA局が集まった。

平成19年4月、体調不調で医師の診察を受けたところ大腸ガンと判明、既に手遅れの一歩手前とて急遽日赤病院に入院、高齢とて覚悟の上の手術だった。長時間だったが、危うくこの世に踏み止まることができた。

その頃からGPSに興味をもち、車載兼可搬タイプのGPS機を買った。早速電池電源をショルダーバックに入れ、自転車や電車で移動中の動作をはじめ、歩きながらその信頼性を確かめた。

結構役立つことを確認できた。このGPS機能を取り込んで行方不明者の現在地を検知できる携帯電話が実現したとか。まさに徘徊老人探索に最適。ぼつぼつ子供たちも親父に持たしてはと内々相談してるような気配、長年電波を追っかけてきたが、最後は電波に追っかけられながらの終焉となりそうだ。

振り返ると、電波を介して公私共に実に多くの人々との触れ合いがあった。長年に亘り頂いたご厚誼には感謝の言葉もない。何かとお指導頂いた方々や、でも、この間、心を許しあった友人たちの多くの方との別れがあった。まことに愛惜に耐えない。わけでも病魔によって若くして未来を失われた方々の無念さを思うにつけて、健康であることの有難さを今更のように痛感している。

どうか皆さん方もより一層健康管理に意を尽くされ、末永く電波を楽しんで頂けるようお願いながら筆を擱きます。

88s/73s



クラブ報の原稿案内及び送付先

前月号（377）から原稿の依頼書を送付させて戴いております。クラブ報に依頼書が同封されておりましたら、ご賛同戴き原稿を下記までお送りくださいますようお願いを申し上げます。

JA5AA久米OMから原稿が届きましたので掲載をさせて戴きました。TNX 久米OM
身近な出来事、旅行記、自身のハムライフ、掲載要望などのジャンルは問いません。

原稿サイズ：B5サイズ 出来ればWordで作成しメール、電子メールが無い場合はfaxか郵送。

送付先：E-mail：

Fax：

★★★ 新入会員募集中 ★★★

JARL香川クラブでは新会員を募集しています。

今年はクラブ結成63年目(1948年10月結成)になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。

クラブに新風を吹き込むと同時に、活性化のためにも新入会員の募集にご協力ください。

JARL香川クラブでは、会員サービスのために無線局免許状の期限切れについてお知らせをしていますが、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局免許状を取得した方は、その都度お知らせくださいますようお願いいたします。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

**前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成23年度会費につきましても早急に納入をお願いします。**

JARL香川クラブ報

発行責任者	JH5LYW	三好	伸幸
編集者	JA5TFJ	横田	寿夫
	JH5WMN	山口	博司
	JI5XTP	坂内	信洋